

## 2026 年度 第 1 回理事会議事録

- I. 会議名 : 2026 年度 (公社) 日本地すべり学会 第 1 回理事会  
 II. 開催日時 : 2026 年 5 月 8 日 (金) 14 時 30 分～17 時 00 分  
 III. 開催場所 : WEB会議  
 IV. 出席者 : 理事出席 16 名, 監事出席 2 名, その他 2 名

役職	氏名	出欠	役職	氏名	出欠	役職	氏名	出欠
理事	浅野 志穂	○	理事	岡田 康彦	○	理事	杉本 宏之	○
理事	新井場 公德	○	理事	笠井 美青	×	理事	堤 大三	○
理事	飯沼 達夫	○	理事	加藤 猛士	○	理事	中村 真也	×
理事	石丸 聡	○	理事	木村 一成	×	理事	林 一成	○
理事	稲葉 一成	○	理事	佐藤 剛	○	理事	古谷 元	○
理事	今泉 文寿	○	理事	佐藤 浩	×	理事	森口 周二	○
理事	王 功輝	○	理事	柴崎 達也	○	(理事 16 名, 定足数 11 名)		

監事	竹下 航	○	監事	木村 勝美	○	(監事 2 名)		
----	------	---	----	-------	---	----------	--	--

事務局	鈴木 英則	○	総務部	藤元 亮	○			
(その他 2 名)								

○理事会開催時における理事の出席数は 13 名。定足数 11 名 (理事の過半数) を満たし理事会は成立。開催時に出席理事の通信確認を行った。

古谷理事は、審議事項 1 の途中より参加 (出席理事 14 名)。

稲葉理事は、審議事項 2 の途中より参加 (出席理事 15 名)。

王理事は、審議事項 8 の途中より参加 (出席理事 16 名)。

○議事録署名人は、浅野会長、竹下監事、木村監事。

### <議長あいさつ>

浅野会長が開会のあいさつを行った。

## 議題 I . 審議事項

### 1. 2025 年度事業報告

各部, 各支部の担当理事より, 2025 年度事業報告についての説明がなされた部長, 支部長が欠席の研究調査部, 国際部, 新潟支部, 関西支部, 九州支部については林理事が説明。表彰委員会, 解説委員会, 斜面对策技術国際化委員会については林理事, 能登半島地震災害対応委員会については杉本理事, 会員数対策については, 加藤理事, アウトリーチについては柴崎理事が説明。説明後の理事, 監事からの意見及びその後の質疑・応答は以下の通りである。

- ・ 研究調査部の研究委員会の件名の欠落 (1 件を追記予定), および北海道支部の活動日 (2025 年 2 月→2026 年 2 月) の誤記について修正の指摘があり, 了承された。

2025 年度事業報告についての審議の結果, 賛成 14 票, 反対 0 票で承認された。

### 2. 2025 年度決算報告及び監査報告

林理事より, 2025 年度決算報告についての説明がなされた。2025 年決算の要点は下記のとおりである。

- ・ 当年度の収支は約 238 万円の赤字となり, 前年度 (約 158 万円の赤字) から拡大した。収益は前年度比約 457 万円増加したが, 事業費が約 537 万円超増加したことによる。
- ・ 賞味財産残高は約 280 万円となり, ここ 4 年間連続で減少が続いている。
- ・ 管理費はほぼ横ばいであり, 赤字拡大の要因は事業費の増加にある。

その後, 木村監事・竹下監事より監査報告がなされた。監査の結果, 法令・定款への適合が認められた一方, 以下の付記事項が述べられた。

- ・ 財政健全化の観点から, 印刷製本費・パートアルバイト費・旅費交通費等, 突出している費目について精査し, 費用削減の工夫が望ましい。
- ・ 一部支部において現金決済が残存しており, 記録の透明性確保のため, 可能な限り口座振込への移行が望ましい。
- ・ 公益法人会計基準の改正 (令和 10 年度までに新基準へ移行必要) への対応を検討されたい。

説明後の理事, 監事からの意見及びその後の質疑・応答は以下の通りである。

- ・ 研究発表会の黒字化について, 収支がバランスする前提の予算で参加費等が設定されている。極端な黒字を出して他の事業の赤字を補填することが妥当であるのか懸念が

ある。

- ・ コロナ禍以前には、結果的に研究発表会の黒字が他の赤字事業をある程度補填する年もあったが、収益の適正性については、参加費の妥当性の観点からも引き続き留意する。
- ・ 赤字の原因を事業別・費目別に分析し、どこを改善すべきかを明確にする必要があるのではないか。  
→ご指摘を踏まえ、分析・整理を進めたい。
- ・ 貸借対照表の日付（「2025年3月31日」→「2026年3月31日」）の誤記について修正が求められ、了承された。

2025年度決算報告・監査報告についての審議の結果、賛成15票、反対0票で承認された。

### 3. 2026・2027年度理事会の日程変更

林理事より、理事会日程の一部変更についての説明がなされた。説明後の理事、監事からの意見及びその後の質疑・応答は以下の通りである。

- ・ 2026年9月の群馬大会時の理事会について、県民講演会が前橋（14時～16時）での開催となるが、理事会は高崎のGメッセ会議室にて16時から開催し、県民講演会はWeb配信により高崎の会議室でも視聴可能とする計画である。
- ・ 2027年5月の理事会は、連休との重複を避けるため、1週間ずらして5月14日に変更したい。

2026・2027年度理事会日程の変更についての審議の結果、賛成15票、反対0票で承認された。

### 4. 2026年度学会賞受賞者と表彰細則の改正

岡田理事（表彰委員）より、2026年度学会賞受賞者および表彰細則の改正についての説明がなされた。説明後の理事、監事からの意見及びその後の質疑・応答は以下の通りである。

- ・ 技術報告賞について、共著者全員への授与を求める推薦があったが、表彰細則の「原則として個人に授与する」という規定に基づき、筆頭著者個人への授与とした経緯が説明された。
- ・ 表彰細則の改正案として、技術報告賞は「執筆した個人に授与される」旨を明記する修正が提案された。これは論文賞の規定表現に倣ったものであり、「原則として個人に授

与する」ことを明確にすることを目的とする。

2026年度学会賞受賞者および表彰細則の改正についての審議の結果、賛成15票、反対0票で承認された。

## 5. 2026年度助成対象研究課題

古谷理事より、2026年度助成対象研究課題の審査結果についての説明がなされた。

- ・ 応募1件、研究調査部でのメール審査の結果、全会一致で採択となった。

2026年度助成対象研究課題についての審議の結果、賛成15票、反対0票で承認された。

## 6. 学会誌投稿審査システムの切替

岡田理事より、学会誌投稿審査システムの切り替えについての説明がなされた。説明後の理事、監事からの意見及びその後の質疑・応答は以下の通りである。

- ・ 現行のEditorial Managerは、JCR非収録誌を対象外とする方針変更により、2027年9月末で使用不可となる予定である。
- ・ 代替システムとして、J-stage投稿審査システム（ベーシックタイプ・無償）への移行を計画している。2026年第2四半期より申請受付が開始される予定であり、早期申請により2026年12月頃からの運用が見込まれる。
- ・ 移行後は約1年間、現行システムとの並行運用が可能であるため、2027年9月の期限までに円滑に移行したい。
- ・ 移行に際して編集委員の負担が増大することが懸念されるが、対応チームを編成して取り組む方針である。

学会誌投稿審査システムの切り替えについての審議の結果、賛成15票、反対0票で承認された。

## 7. 広報細則の改正

飯沼副会長より、広報細則の改正案についての説明がなされた。説明後の理事、監事からの意見及びその後の質疑・応答は以下の通りである。

- ・ 広報委員会の役割として、ホームページ運営と広報活動を明確に整理し、各支部・各部より広く委員を選任する旨を追記した。

- ・ 定期的な活動はワーキンググループにより行う形を規定に盛り込んだ。
- ・ 理事会への報告事項として、対応結果や課題等を報告する旨を追記した。
- ・ ホームページのリニューアルについては、初期費用の目安として約 50 万円程度を想定している。
- ・ ホームページの更新については準備委員会の立ち上げる方針とし、各支部からの若手委員の推薦を求める方針とする。

広報細則の改正については、最終的な成文を別途精査の上、改めて提示することとし、本件は継続審議となった。

## 8. 土砂災害緊急調査細則の改正

新井場専務理事より、土砂災害緊急調査細則の改正案についての説明がなされた。説明後の理事、監事からの意見及びその後の質疑・応答は以下の通りである。

- ・ 土砂災害緊急対応委員会を廃止し、理事の提案により柔軟に調査団を派遣できる仕組みとする。
- ・ 会長および支部長への報告によりガバナンスを確保するとともに、社会的責任（住民プライバシーへの配慮等）を細則に明文化する改正を提案する。
- ・ 提案に対し、意思決定の権限が不明確であり、複数の理事がそれぞれ独立して派遣を提案した場合に重複や混乱が生じる懸念があるとの指摘があった。調整機能を担う主体を明確にする必要があるとの意見が述べられた。
- ・ また、研究調査部との関係の整理について意見が述べられた。

上記意見を踏まえ修正が必要であることから、継続審議とし、次回の理事会に改めて提案することとなった。

## 9. 選挙細則の改正

林理事より、選挙細則の改正案についての説明がなされた。説明後の理事、監事からの意見及びその後の質疑・応答は以下の通りである。

- ・ インターネット投票への完全移行に伴い、郵送投票に関する条文を削除するとともに、代議員選挙と役員選挙間の表記の不整合を修正する改正案を提案する。
- ・ 審議中に役員選挙細則の第 6 条の条文（無効票）において、郵送についての記載が残っていることが指摘された。

上記の見落とし箇所を含め、全体を再精査の上、継続審議として修正したものを次期理事会に改めて提案することとなった。

## 10. 入退会者状況

鈴木事務局長より、入退会者状況についての説明がなされた。

- ・ 2026年4月30日時点の会員数は1,615名（前年同期比 +27名）。

入退会者についての審議の結果、賛成16票、反対0票で承認された。

## 議題Ⅱ. 報告事項

### 1. 2026年度シンポジウム

佐藤剛理事より、2026年度シンポジウムについての説明がなされた。

- ・ 理事、監事からの意見は、特になかった。

### 2. 群馬大会準備状況

新井場専務理事（関東支部長）より、第65回研究発表会（群馬大会）の準備状況についての説明がなされた。

- ・ 理事、監事からの意見は、特になかった。

### 3. 会長・副会長・専務理事の職務執行報告

浅野会長、石丸副会長、飯沼副会長、新井場専務理事より、各自の職務執行状況についての報告がなされた。

- ・ 浅野会長：執行部会・理事会に参加、各種対外活動を実施。財政健全化への取り組み等について述べられた。
- ・ 石丸副会長：執行部会（3月のみ欠席）・理事会に参加、土砂災害調査にオンラインで参加した旨が述べられた。
- ・ 飯沼副会長：執行部会（3月のみ欠席）・理事会に参加した旨が述べられた。
- ・ 新井場専務理事：執行部会・理事会に参加。
- ・ 理事、監事からの意見は、特になかった。

その他

- ・ 国際部より、WLF7（第7回 World Landslide Forum）への参加申し込み期限が5月末まで延長されており、発表・参加・企業展示とも引き続き募集中である旨の情報提供がなされた。
- ・ 飯沼副会長より、他学会と比較して会員数が増加傾向にあることを踏まえ、各支部における講演会・講習会等の機会を通じた入会者増への協力が引き続き求められた。

以上

議事録署名人 会長 浅野 志穂 ㊟

議事録署名人 監事 竹下 航 ㊟

議事録署名人 監事 木村 勝美 ㊟